

6 農業用使用済みプラスチックは適正に処理しましょう

○農業用使用済みプラスチックは、農家が自らの責任で適正に処理することが義務づけられています。処理方法は市町村ごとの協議会で定められています。

○農業者はマニフェスト(A票、B2票、D票、E票)を交付から5年間保管しなければなりません。

詳しい処理方法は各市町村の担当部署、若しくはお近くのJAへお問い合わせください。



7 水田からのプラスチック被膜肥料殻の流出を抑えましょう

多くの被覆（緩効性）肥料は、プラスチックの殻が肥料成分を覆っています。水田では、肥料成分が溶出した後のプラスチック肥料殻が水面に浮いて、河川や八郎湖へ流れ出る可能性があります。特に代かき後の落水で流出するため、田植え前に強制落水しない水管理を行いましょう。



代かき後、田面に上っているプラスチック殻



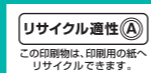
拡大した
プラスチック製
被膜肥料

問合せ先

秋田県生活環境部環境管理課八郎湖環境対策室

Tel 018-860-1631

令和6年2月版



恵みや潤いのある

“わがみずうみ”八郎湖を目指して

水田からの濁水排出を
抑えましょう

農業資材の不法投棄は止めましょう



八郎湖水質保全
シンボルキャラクター
せいりゅう
清龍くん

農家の皆さんへ

代かきから田植え時期に大量に流出する農業排水(濁水)には、富栄養化の原因となる窒素、リンが多く含まれています。八郎湖に流れ込む人為的な汚濁負荷の内の約9割が水田からであり、特に代かき後に排出される濁水が大きな要因になっています。水田における水管理に留意し、新たな栽培技術の導入などにより濁水排出を抑えましょう。

- 1 漏水対策を万全にしましょう。
- 2 代かきは浅水状態で行いましょう。
- 3 代かき後は水深を抑えて、落水時の水量を極力少なくしましょう。
- 4 無代かき栽培で濁水削減と節水を。
- 5 GPS付き田植機導入時には、落水しない田植えを実践しましょう。
- 6 農業用使用済みプラスチックは適正に処理しましょう。
- 7 水田からのプラスチック被膜肥料殻の流出を抑えましょう。

秋田県

濁水流出防止に向けて

八郎湖に流入する人為的な汚濁負荷のうち、農地由来が9割以上も占めています。特に、代かき後の濁水が大きな要因となっているため、次の取組を推奨しています。

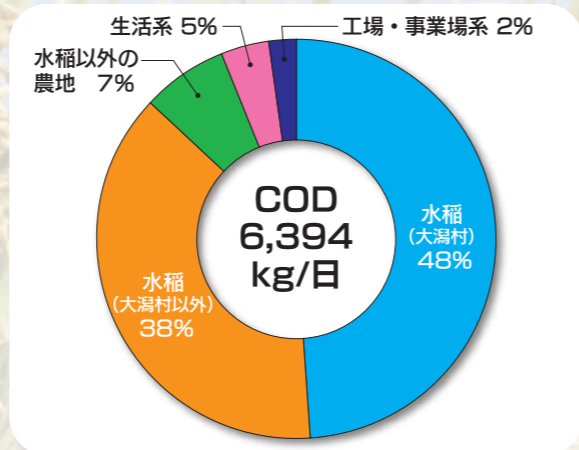
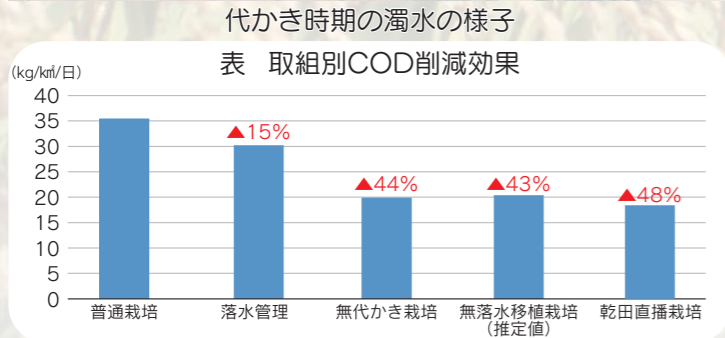


図 人為的汚濁負荷の発生源別割合 (H30年度実績 八郎湖環境対策室試算)



1 漏水対策を万全にしましょう

ネズミやモグラ、アメリカザリガニなどの穴により畦畔から漏水している場合は、濁水の流出のほか、地温・水温の低下や除草剤の効果低下をもたらします。あぜ塗りにより畦畔を補修するなどして、漏水を防ぎましょう。



あぜ塗り機による補修

2 代かきは浅水状態で行いましょう

代かきは土塊が7~8割見える程度の浅水状態で行いましょう(浅水代かき)。浅水で代かきをすることで浮きワラの軽減にもつながります。



浅水代かき

3 代かき後は水深を抑えて、落水時の水量を極力少なくしましょう

田植え前は、水深が6cm以下になるように水管理を行い、代かき後の落水量を少なくしましょう。



水深を押さえた落水管理

4 無代かき栽培で濁水削減と節水を

無代かき栽培は、耕起、砕土後に水を入れてしばらく土塊に吸水させた後、代かきを行わずに田植えを行う栽培法です。



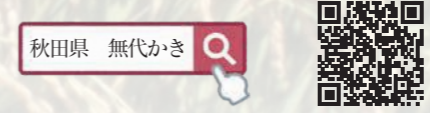
無代かきほ場(左)と、代かきしたほ場(右)

- メリット**
- 春作業の負担軽減
 - 排水性の改善
 - 規模拡大に有利
 - 軟弱なほ場の改善、機械作業性の向上
 - 稲体の健全性維持
 - 畑地化が容易で、田畑輪換に向いています

- デメリット**
- 天候に左右される砕土作業
 - 漏水の増大
 - 雑草の発生増加
 - 計画に余裕を持ち、状況によって代かき移植に変更
 - 対策の徹底とほ場の選択
 - 漏水対策の徹底と均平
 - 除草剤の選択など

より詳しい情報は

秋田県公式サイト「美の国あきたネット」に作業の映像や無代かき栽培の手引きを掲載していますので、併せてご覧ください。



無代かきほ場での田植えの様子

5 GPS付き田植機導入時には、落水しない田植えを実践しましょう

RTK測位を利用したGNSS自動操舵システムを装着した田植機やGPS付きの直進アシスト田植機は、田植え時のマーカーラインが不要となるため、湛水状態(水深6cm程度)で田植えを行う「無落水移植栽培」が可能となります。

代かき後から田植えまで強制落水しないことで、八郎湖への濁水排出を抑えることができます。



自動操舵システムによる「無落水移植栽培」

- メリット**
- 田植え前後の水位調整の手間が省けます。
 - 車輪への土壌付着が少なく、車輪跡が荒れずに作業が可能です。

- ポイント**
- 欠株、浮き苗の心配
 - 秋田県農業試験場が中苗で移植を行った試験結果では、無落水移植と慣行移植で欠株率に大きな差は見られませんでした。

表 移植時の水深と落水の有無による移植精度の比較

| 試験区 | 移植時水深 (cm) | 植え付け深 (cm) | 欠株率 (%) |
|--------|------------|------------|---------|
| 無落水 | 3.6 | 3.7 | 0.4 |
| 慣行(落水) | 1.2 | 3.7 | 0.3 |

※秋田農試試験結果(2017~2019)を平均した数値

より詳しい情報は、こちらから

秋田県農業試験場 無落水移植



RTK-GNSS自動操舵システムについて

- RTKは、基準局からの信号を受信してGPSの精度を向上させるシステムです。これを利用することで直進精度を±5cm以内にする事ができます。
- 自動操舵中は、オペレータはハンドルを操作することなく、苗の植付け状況などが確認できます。
- 大潟村では現在4か所に基準局が設置され、村内の全てのほ場で利用が可能です。その他の地域では、別途可動式の基準局やスマートフォン等での受信が必要です。